

み
か
い

か

い

安住院便り (第40号)

平成30年1月1日発行
〒703-8236
岡山市中区国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

仁王門（におうもん）

総朱塗りであることから、「赤門」と呼ばれ、皆さんに親しまれています安住院立年・仁王門は、康正二年（一四五六年）の建築年代のはつきりした楼門として、岡山県内最古のものです。



その時に寄付して頂いた方々の名簿も「備前国禅光寺仁王堂造立奉加人交名」として、当院に残つております。その時代にあつて、身分に拘わらず、多くの人々の努力で出来上がつたことが分かります。その後、幾度かの修復があり、最近では、昭和四十七年（一九七二）に解体修理が行われました。しかし、その後五十年近くが経ち、「赤門」という印象が薄れています。よく言われます。

門の両脇におられる仁王像（金剛力士像）では、天正三年（一五七五）に再興されたもので、その時の備前国主・宇喜多公の力による

仁王像が安置されているので、仁王門と呼ばれます。一般的には、山門、総門、大門などとも言われます。要するに、寺院の境内に入る入口で、この門を通過すると、そこは仏教の聖域で、祈りの場所であります。江戸時代には、境内に安住院を中心にして、多くの僧侶が修行に励んでいました。そして、門の北側の田畠の広がる地域を、瓶井（ミカイ）村、或いは瓶井門前村と名乗り、明治初頭まで、行政区域がありました。

現在の門が、戦国時代の建立です。喜多公、小早川公、池田公と歴代の岡山藩主の治世を眺めてきたのが、安住院仁王門です。備前に岡山という地域ができて、宇喜多公、小早川公、池田公と歴代の岡山藩主の治世を眺めてきたのが、安住院仁王門であります。そして、明治維新から太平洋戦争も経験して、瓶井の地域を見守りながら、静かに佇んでいました。そして、安住院を護り、檀信徒の皆さんのが幸福を支えてきたものと信じています。

これから先も長く、歴史と文化と信仰を護ることのできる門であつてくれることを切に願っています。皆さまのご協力も、末永く宜しくお願い申し上げます。

合掌

安住院ホームページ <http://www.anjuin.com/>

初観音法会のご案内

【副住職・長男 生後八ヶ月】

来る一月十七日（水曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈祷並びに護摩供を厳修致します。

年頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。

また、特別祈祷も申受けますので、三日前までにご連絡下さい。

（生駒 善勝）（その⑩）

《高野山奥の院・燈籠堂》

「消えずの火」 第五回

高野山奥の院・燈籠堂に、一つの燈籠を奉納できたことで、お照は得度を決意し、尼僧になることにしました。一万基の燈籠を捧げた藪坂長者は、お照の苦労話に感激し、高野山の麓に、「恵日庵」を寄進し、お照は、毎朝夕に花を供えて、お大師様に清らかな祈りを献げました。



ただ一人残された娘は、まだ乳のみ子で、男の身では、子供を抱えては生きていけず、子旅路の末に…」
老人の声が途切れ、涙が落ちました。（次回に続く）

摂津観音靈場参拝⑥

昨年十月二十五日、摂津觀音靈場の第六回目で最後となる参拝を行いました。今回は靈場西の端、神戸市須磨区方面の三ヶ寺と、別に太山寺をお参りしました。
今年も台風一過の秋晴れの下、絶好のお参り日和になりました。移動距離もなく、ゆっくりと参拝することが出来ました。境内の広い大本山須磨寺では、お寺の方の説明もあり、本堂内部の仏様を拝観することも出来ました。また、有名な平敦盛の話に聞き入り、源平合戦に思いを馳せました。また、靈場とは関係なかつたのですが、天台宗の古刹の太山寺に参拝し、ご住職に説明をして頂きました。

とても大きな、丈六の阿弥陀像を拝むことも叶い、素晴らしいお寺は、まだまだあるのだと実感致しました。
次の予定は、四月九日・十日です。

